

不眠ガイドラインの作成

研究分担者 小川 朝生（所属 国立研究開発法人国立がん研究センター）

研究分担者 島津太一（所属 国立研究開発法人国立がん研究センター）

研究要旨

がんに関する重要な問題の一つである精神心理的問題に対応するために、精神心理的な問題に対する診療ガイドラインの整備を目指し、重要課題の不眠に対する診療ガイドラインの作成を Minds に準拠する形で進めた。本年度は、ガイドライン作成グループを設置し、重要臨床課題の抽出並びに現状調査を行うための調査票の開発を行った。

A. 研究目的

わが国のがんに関する重要な問題の一つに、精神心理的な問題がある。実際、がん患者の「気持ちのつらさ」の併存率が 28.0%と報告されている。不眠(Akechi T, Psycho-Oncology 2007)も再発不安と並んで対策が急がれている(Butow P, Oncology 2018)。

しかし、わが国では、前述の精神心理的な問題に関する診療ガイドラインが存在せず、患者の精神心理的ケアが不十分であるとの指摘がなされてきた。

ここではがん治療中の不眠に関する診療ガイドラインの作成を行うことを目標としている。特に、(財)日本医療機能評価機構による Minds に準拠し、診療ガイドラインの統括委員会とガイドライン作成グループの設置を行い、スコープの作成、臨床的・クエスションの設定を行い、内外の知見に関して系統的なレビューを行い、知見と残された課題の抽出を行うとともに、実装科学の観点から先行研究におけるガイドライン実装の促進・阻害要因についての知見を整理することを目指した。

B. 研究方法

不眠の診療ガイドラインの作成を、Minds ガイドライン作成マニュアルに基づき、下記の手順に従い進めた。

- ① 統括委員会、ガイドライン作成グループの設置
- ② スコープの作成、重要臨床課題・臨床的・クエスションの設定
- ③ 系統的レビューを中心としたエビデンスの収集、評価・統合
- ④ 推奨文の作成
- ⑤ 診療ガイドライン草案作成
- ⑥ 外部評価者（患者等の一般市民の代表を含む）による外部評価
- ⑦ 診療ガイドライン最終決定
- ⑧ 公開

C. 研究結果

Minds ガイドライン作成マニュアルに従い、統括委員会、ガイドライン作成グループを設置し、エキスパートによる重要臨床課題の抽出、臨床的・クエスションの設定を行った。

重要臨床課題にあわせて、わが国の現状調査を行う質問票の開発を行った。

D. 考察

Minds に準拠したがん患者の不眠に関するガイドライン作成に着手した。今後、現状把握をおこなったうえで、社会実装の観点を組み入れた診療ガイドライン草案の作成を進める予定である。

E. 結論

Minds に準拠した方法で、不眠に関する診療ガイドラインを作成することで、本研究の目的である患者の精神心理的支援に資するために、医療者および患者・家族が利用可能な資料を開発することが可能となるとともに、がん対策として今後わが国に必要な取組みが明らかになる。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Nakazawa Y, Takeuchi E, Miyasita M, Sato K, Ogawa A, Kinoshita H, Kizawa Y, Morita T, Kato M. A Population-Based Mortality Follow-Back Survey Evaluating Good Death for Cancer and Noncancer Patients: A Randomized Feasibility Study. *Journal of Pain and Symptom Management*. 2021;61(1):42-53. e2.
- 2) Nakanishi M, Ogawa A, Nishida A. Availability of home palliative care services and dying at home in conditions needing palliative care: A population-based death certificate study. *Palliative Medicine*. 2020;34(4):504-12.
- 3) Matsuda Y, Maeda I, Morita T, Yamauchi T, Sakashita A, Watanabe H, Ogawa A, et al. Reversibility of delirium in ill-hospitalized cancer patients: Does underlying etiology matter? *Cancer Medicine*. 2020;9(1):19-26.
- 4) Maeda I, Ogawa A, Yoshiuchi K, Akechi T, Morita T, Oyamada S, et al. Safety and effectiveness of antipsychotic medication

for delirium in patients with advanced cancer: A large-scale multicenter prospective observational study in real-world palliative care settings. *Gen Hosp Psychiatry*. 2020;67:35-41.

5) Katayama K, Ishikawa D, Miyagi Y, Takemiya S, Okamoto N, Ogawa A. Qualitative analysis of cancer telephone consultations: Differences in the counseling needs of Japanese men and women. *Patient Educ Couns*. 2020;103(2020):2555-5264.

6) Hashiguchi Y, Muro K, Saito Y, Ito Y, Ajioka Y, Hamaguchi T, Ogawa A, et al. Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) guidelines 2019 for the treatment of colorectal cancer. *International Journal of Clinical Oncology*. 2020;25(1):1-42.

7) 小川朝生. 小川朝生. がん患者におけるせん妄ガイドライン 2019 年版. *精神医学*. 2020;62(5):692-7.

8) 小川朝生. 患者さんの休息が障害されるときにはなにが起こっているのか～その原因と症状マネジメント～. *がん看護*. 2020;25(5):497-502.

9) 小川朝生. がん薬物療法による認知機能障害と対策. *癌と化学療法*. 2020;47(6):905-12.

10) 小川朝生. サイコオンコロジー分野の家族ケア. *緩和ケア*. 2020;30Suppl:009-14.

11) 小川朝生. 精神科医と心理士の違い. *緩和ケア*. 2020;30(2):102-8.

12) 小川朝生. 知っておきたい非がん患者の緩和ケア第 6 回認知症. *月刊 薬事*. 2020;62(4):93-102.

13) 小川朝生. 適切なアセスメントとケアで予防できる 医療者が知っておくべきせん妄への対応. *病院安全教育*. 2020;7(4):59-62.

14) 小川朝生. ACP とは何か 患者の意思の実現を考える本人目線での支援の取り組み.

最新医療経営 PHASE3. 2020;428(4):16-9.

15) 小林清香、平井啓、谷向仁、小川朝生、原田恵理、藤野遼平、立石清一郎、足立浩祥. 身体疾患による休職体験者における職場ストレスと関連要因. 総合病院精神医学会.

2020;32(4):403-9.

16) 小川朝生. 非がん疾患に対する緩和ケア疾患別の特性 認知症. 内科. 2021;127(2):245-9.

17) 小川朝生. せん妄と転倒. 日本転倒予防学会誌. 2021;7(3):19-21.

18) 小川朝生. せん妄対策の進歩. 老年内科. 2021;3(3):270-7.

2. 学会発表

1) 小川朝生, 高齢者心不全における意思決定支援. 第24回日本心不全学会学術集会(シンポジウム); 2020/10/15; Web開催.

2) 小川朝生, せん妄への対応. 日本転倒予防学会第7回学術集会(転倒予防指導士セミナー); 2020/10/10-25; Web開催.

3) 谷向仁、小川朝生, 急性期病院における認知症診療の課題 一実態調査から見えてきたこと一. 第116回日本精神神経学会学術総会(シンポジウム); 2020/9/28-29; Web開催.

4) 平井 啓 足立浩祥, 村中 直人, 小林 清香, 小川朝生, 谷向 仁, 谷口 敏淳, 山村 麻予, 原田 恵理, 藤野 遼平, 堀井 健司, 桜井 なおみ, 立石 清一郎, 治療と職業生活の両立支援における高ストレス状態の測定ツールとしての脳疲労尺度の開発. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会2020(ポスター); 2020/8/9、10; Web開催.

5) 前川 智子 中村久実, 山中 圭子, 田村 貴恵, 服部 幸子, 石井 知子, 岩爪 美穂, 笠川友恵, 幸喜 佐央里, 河鳶 夏来, 平野 勇太, 榎戸 正則, 岩田 有正, 小川朝生, がん専門病院における高齢者総合的機能評価の傾向と今後の課題. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会2020(ポスター); 2020/8/9、10; Web開催.

6) 平野勇太、前川智子、榎戸正則、岩田有

正、栗山尚子、菅澤勝幸、關本翌子、小川朝生, o DELTAプログラムによる知識の獲得と行動変容に関する教育効果の検討. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会2020(ポスター); 2020/8/9、10; Web開催.

7) 柘津晶子、岩田有正、平野勇太、萩原莉穂、榎戸正則、小川朝生, 発達障害傾向のあるがん患者に対する子どもへのコミュニケーション支援における心理職の介入. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会2020(ポスター); 2020/8/9、10; Web開催.

8) 岩田有正、榎戸正則、小川朝生, 転移性脳腫瘍による症候性てんかんに対するレベチラセタム単剤投与の有効性と安全性に関する後ろ向き検討. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会2020(ポスター); 2020/8/9、10; Web開催.

9) 小川朝生, わが国における非がん領域の緩和ケアの課題. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会2020(国際シンポジウム); 2020/8/9、10; Web開催.

10) 小川朝生、天野慎介、藤井大輔、田中麻衣、阿萬和弘, ピアサポートの現状と実践に向けた取り組み. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会2020(共催セミナー); 2020/8/9、10; Web開催.

11) 小川朝生, 認知症の緩和ケア 急性期医療での現状と課題. 緩和・支持・こころのケア合同学術大会2020(シンポジウム); 2020/8/9、10; Web開催.

12) 小川朝生, 高齢者のがん診療における支援. 第36回日本ストレス学会総会; 2020/10/24-25; Web開催.

13) 小川朝生, サイコオンコロジー・コアコンピテンシー作成の経験. 第33回日本総合病院精神医学会総会(シンポジウム) 2020/11/20. Web開催.

G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む.)

なし